あすなろ投資顧問
Asunaro Investment Advisory

元ゴールドマンサックスが教える

あすなろ
資産形成セミナー

銀行に貯金をするか、
銀行株を買うかによって変わるお金の話

あすなろ投資顧問
チーフストラテジスト
木村泰章

もくじ

■株式投資を始める前に：マインドセット・・・・・ 2～5ページ

・投資と投機の違い

・資産形成と資産運用の違い

・リスクとリターンをイメージする

・ご自身の投資スタンスを決定する

■株式投資を始めてみましょう：ただし「自己流」は危険です・・・・・ 6～8ページ

・自分でやるか誰かに任せるか

・ポートフォリオという理論を学ぶ

・リスク分散

■銀行株指数ETFチャート・・・・・ 9ページ

■実際の投資アイデア：銀行預金を銀行株への投資に振り向ける・・・・・ 10～11ページ

★株式投資を始める前に：マインドセット★

【投資と投機の違い】

「投資」とは、利益を得る目的で将来有望な企業や事業に資金を投入し、その価値が向上した結果として生まれる利益や配当を得る行為を指します。
通常は長期的な視点で取り組んで安定した利益を得ることを目指すのが特徴です。

一方で、**「投機」**とは短期的な市場価格の変動により利益を得ようとする行為のことで、
不確実だが当たれば利益が大きくなるような方法を指します。
レバレッジをかけて利幅を広げたり、取引回数を増やしたりして利益を増やすことを目指すのが一般的です。

「投資」とは、リスクとリターンを理論（正しいかどうかは問わない。なぜなら絶対的に正しいものはない。）的に説明できるものへ資金を投入する行為で、**「投機」**とは、リターンを得る理論が説明できない、根拠が希薄なものへ資金を投入する行為、と申し上げても宜しいかもしれません。

「投機」が悪いと申し上げているのではなく、「投機」だと割り切っているのであれば否定するつもりはありませんが、一方で、「投資」のつもりが「投機」になってしまっているケースが非常に多い事に警鐘を鳴らしたいと存じます。

株式投資に「プロ」は居ません。
リスク投資であり、絶対的な「正解」という定義が存在しないわけですから、「プロ」は存在しないわけです。
株式投資が、資産運用が、「上手い」か「下手」かの違いだけです。
そして、その違いは単純に、「本質」や「セオリー」や「理論」を理解しているか否かだけです。
是非とも皆様には、「株式投資の上手い投資家」として、安全に株式投資に臨んでいただきたいと存じます。

【資産形成と資産運用の違い】

「投資は余資で」というのが鉄則ですが、「キレイ事」を申し上げるつもりはありません。
「資産形成ステージ」に挑まれている個人投資家様に「余資」なんて無いよ、というのが実情でありましょう。

投資ご予算は30万円しかないけれど、なんとか、その30万円を減らさないように少しでも増やしたい、とお考えの個人投資家様が圧倒的に多いようにも感じております。
ただ、「減らさないように」という部分は「資産運用的姿勢」にも通じ、「増やしたい」という部分は「資産形成的思考」にも該当する事から、この2つを両立するのは容易な事ではありません。

『減らさないように少しでも増やしたい』が大前提という方々は、やはり、投資/運用の王道であるところの、「長期・積立・分散」というスタンスに沿って、投資信託やETF等に積立投資を行う事が「無難」でありましょう。

一方、『どうせリスクを取るならリターンは大きく狙いたい』という方々もいらっしゃるでしょう。
投機性が強くなってしまう事は承知のうえで、「ハイリスク・ハイリターン」狙い、という方々です。これは、「ご資産の運用」というよりは、「ハイリスク投資」そのものです。
ただし、「ハイリスク」という点はご認識なさられていても、「ハイリターン」という点については、どうも、勘違いなさられているケースが多いように感じます。

言い換えますと、リターンに対する想定やイメージが過大である為に、リスキーな投資に対する「自制」が利かず、結果として、ハイリスク・ローリターン」となってしまっているケースが少なく無いように思う次第です。

では、「ハイリターン」とは、どれくらいをご想定なさられているのでしょうか？

「期待リターン」を、投資家が、ご自身のご事情に照らして、「なんとなくでも」見積もる事が、株式投資/運用のうえでは非常に重要です。
その期待リターンに、係るリスクが見合っているかで、投資/運用の「妥当性」が「計測」されうるわけですから、妥当であろうとなかろうと、期待リターンの見積り無しに「投資」行動は成立しないとさえ、申し上げても宜しいかもしれません。

投資成果に対する過大な期待が結局、知らず知らずのうちに、リスクの高い投資スタンスに繋がってしまうわけです。

【リスクとリターンをイメージする】

株価は概ね1日で7%を超える上昇となると「大幅上昇」と見なされる事が多く、株価は大幅上昇したのに、「大して儲かっていない」とお感じになる事があるかもしれません。
しかしながら、理論上は、1日で7%超の評価益が出れば、「運用」上は上出来なのです。

銀行の普通預金の利率が年10%を超えれば、個人投資家の株式投資離れが進むとの指摘もあり、となると、年間のリターンが20%にも達すれば、投資/運用としては「大成功」の部類に入ると申し上げて宜しいでしょう。

これを「たかが20%」とお考えになるのであれば、結局のところ、投資額自体を増やさなければ、満足のいく投資成果は得られない事になります。
なぜならば、個人投資家の皆様の期待リターンの根幹は、「利幅」であって「利率」では無い傾向が強い為です。
一方で、投資額の増大は、リスク資産への投資額の増大ですから、結局のところ「ハイリスク」という投資になってしまう事でしょう。

「30万円の投資資産を1年間で100万円にしたい」というのは、理論上決して不可能ではないものの、その「達成確率」は非常に低い事は投資家様各位が既にご認識いただいているとおりです。

上掲の期待リターンの例になぞって試算すれば、30万円のご投資が、1年間で36万円になれば「大成功」なのですから、株式投資の「一般的な」期待リターンは「年間で20%増えれば御の字」という事になります。
30万円のご投資ならば年間で6万円儲かれば「上出来」という事を、なんとなくでもご認識いただく必要があるわけです。

となりますと、「ハイリターン」の「モノサシ」としては、「年間で20%超のリターン」か、「ごくごく短期間での20%程度のリターン」のいずれか、を「妥当」と見るべきであろうと考えられます。

つまり、「1か月で5割のリターン」などという目論見は、過大な期待であって、なかなか実現せず、なによりも、「1か月で株価が5割下落する可能性」をも含んだ、「ハイリスク投資」であるとご認識なさるべきでありましょう。

【ご自身の投資スタンスを決定する】

「ゼロ金利時代」には、貯蓄ではリターンが期待できないから、資産増大の為に株式投資を始める個人投資家が圧倒的に多かったように思いますが、「金利のある時代」に突入し、モノやサービスの価格が上がるインフレ下では、おカネの価値自体が減ってしまう為に、その「防御策」として株式投資/運用を始めたという方々も多いものと存じます。

「インフレ防御策」を想定しておられるのであれば、「減らさないように」という点こそに重きを置いた、「資産運用的姿勢」に沿った投資スタンスこそが妥当でありましょう。

一方で、「年間で20%のリターン」を期待して、「資産形成的思考」で株式投資を行うのであれば、リスク/リターンのバランスを何よりも重視する必要性がありましょう。

いずれにせよ、投資家各位が、自身のご事情、ご自身の投資目的、ご自身の目論見、などに照らして、根本的な投資スタンスを決めたうえで、そのスタンスから逸脱していないかを、常にご自身で自覚・確認しておく事が必要と考えます。

このスタンスが決定すると、そのスタンスに沿った投資対象もおのずと限定されてきます。
さらには、投資手法や投資期間も、投資スタンスに沿って決定される事が理想です。

例えば、インカムゲイン（配当等）を狙って、バリュー性を有する主力級の大型株等「割安株・安定株」へ投資するのか、株価上昇によるキャピタルゲイン（値上がり益）を狙って、グロース性を有する中小型当「成長株」に投資するのか、この投資対象の選択も、結局のところ、ご自身の投資スタンスによって、変化する事が理想的と言えましょう。

★株式投資を始めてみましょう：ただし「自己流」は危険です★

【自分でやるか誰かに任せるか】

株式投資に興味はあるのだけれど、ちょっと不安だ、とお考えの方、お気持ちは重々お察し申し上げます。
おそらく、これらの点が不安要因として挙げられましょう。

・とにかく、なんだか難しそうで、面倒なイメージがある
・元本が保証されていないから資産が減ってしまう事が怖い
・わからない、知らない事だらけで、何から始めれば良いのか迷うから手が出ない

そんな不安を解消する最も簡単な方法は、「誰かに全部お任せ」してしまう事でありましょう。
資産運用も、資産形成も、全て、専門的な知見を有する金融機関等に、「お任せ」してしまうという方法です。

このような、金融商品取引業者による「一任運用」は本来、少額投資を対象としておらず、その対価（委託手数料等）も高額なものが多かったのですが、テクノロジー面の進化や、規制緩和等の効果により、現在では、小額投資でも「完全自動資産運用サービス」を手軽に利用できるような環境が整えられました。
投資成果は保証されるものではありませんが、難しそう、面倒くさそう、わかない・知らない事だらけ、という点に関する不安は、「誰かに全部お任せ」する事により解消されましょう。

「完全自動」とはいえ、皆様ご自身にお決めいただくべき事が全く無いわけではありません。
いかほどの資産を投じるか、つまりは、どれくらいの投資金額を「お任せ」するのかを決定する必要があります。
つまり、どのような金融商品に、どれくらいの投資資金を投じるかという、「資産配分」については「完全自動では無い」のです。
この「資産配分」という点についても、昨今では、「自動」を謳うような商品も現れ始めましたが、前述のように、「ご自身の投資スタンスに沿っているか否か」の判断は、結局のところ、ご自身で行っていただく事こそが理想であり、むしろ、「完全自動」では無い事が望ましいものと考えます。

以上の事から、皆様が株式投資を始めるにあたり、一番最初にやっていただく事は、ご自身の「資産配分」と申し上げて宜しいでしょう。
その中で、どの部分を「お任せ」や「完全自動」にするのかをご判断いただく事が妥当と考えます。
実際の株式投資をご自身で行うか否かについても、まずは、「資産配分」にご自身で着手してから、とお考え下さい。

【ポートフォリオという理論を学ぶ】

一般的に、投資の基本は、**「長期」「分散」「積立」**とされます。
王道中の王道ですね。

このうち、多少の「誤解」はあったとしても、また、実際には実行していなかったとしても、**「長期」**という「時間軸」については、なんとなくイメージも湧くし、理解しやすい「定義」であると思います。
「積立」についても、詳しい説明は不要でしょう。

一方、大幅に「誤解」されている、もしくは、「曲解」されていると思われる定義が**「分散」**です。
分散するのは、投資資産（資金）そのものではありません。
「投資対象こそを分散する事」こそが「大義名分」なのです。

言い換えますと、「極論」的には、株式投資、株式という投資対象の中で、いくら分散投資を行っても、投資対象が株式である限り、投資対象の分散と言うには不十分と言えます。
なぜならば「リスクが分散されていない」為です。

例えば、投資対象を以下のように振り分ける事が**「リスク分散投資」**に該当します。

- **株式投資：50%**
- **実物投資で金に投資：20%**
- **事業投資で太陽光発電に投資：20%**
- **夢に賭けるつもりで暗号資産に投資：10%**

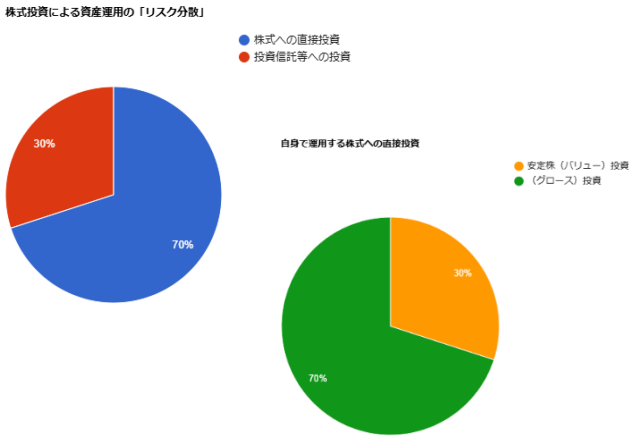
つまり、株式投資という「枠」の中で、10銘柄に投資資産を10%ずつ振り分けているのは、「分散投資」には該当しないと思っていただいて宜しいでしょう。

冒頭に挙げた「投資の基本」姿勢は、あくまでも、投資に関わる不確実性＝リスクを軽減する事を目的としています。
結局のところ、理想論においては、投資/資産運用の基本スタンスは、儲ける事では無く、「リスクを軽減する事」であると考える事が一般的です。

【リスク分散】

では、株式投資による資産運用という枠の中での「リスク分散」を行うにはどうすれば良いのでしょうか？
例えばまず、こんな感じの振り分けはいかがでしょう？

・ご自身で運用する：株式への直接投資：70%
・他人が運用する：投資信託等への投資：30%



次に「自身で運用する株式への直接投資」をもこんな感じで振り分けてみましょう。

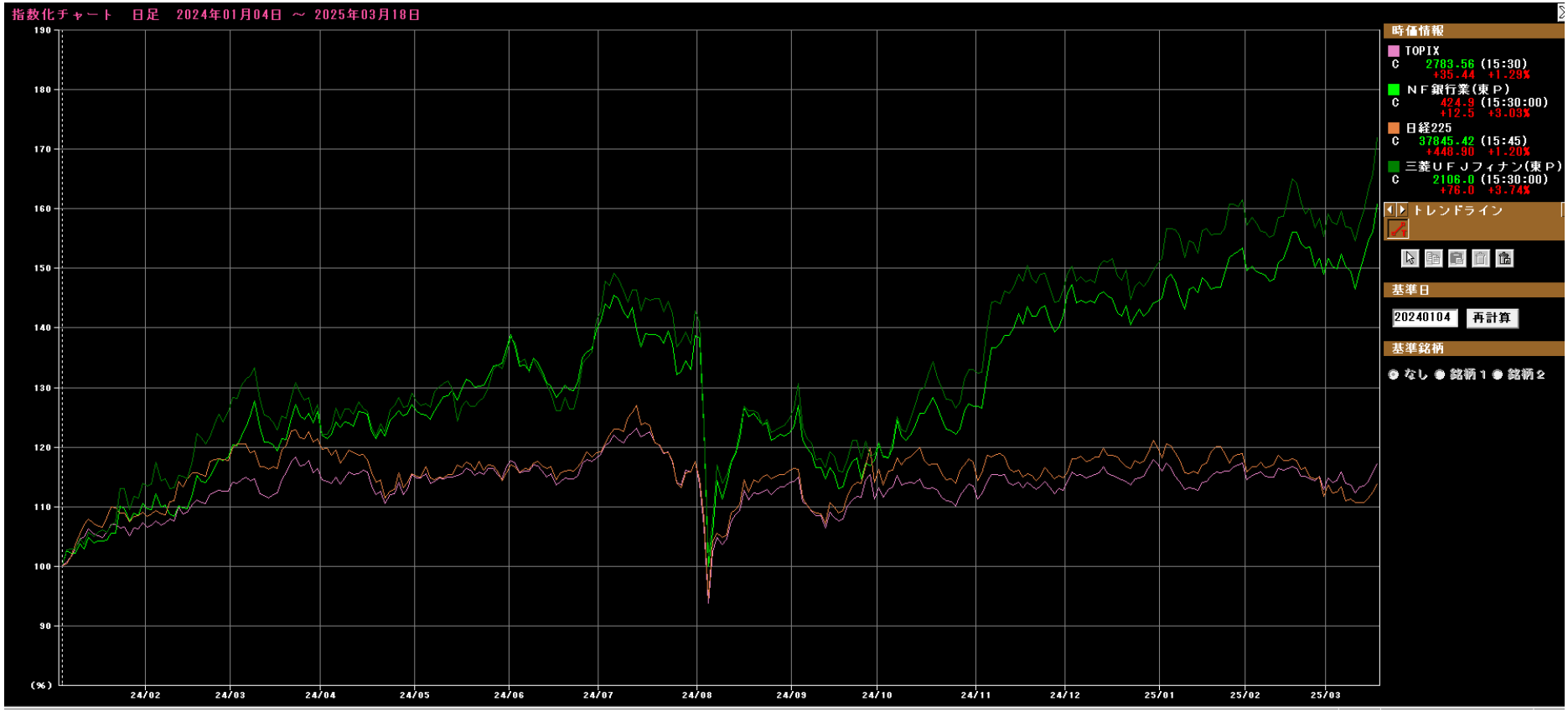
・ご自身による安定株（バリュー）投資：30%
・ご自身による成長株（グロース）投資：70%

昨今では、日本株以外にも、外国株への投資を併せて行っておられる個人投資家様が増えています。
しかしながら、外国株式投資にあたっては、株式投資の有する「株価変動リスク」と「株式発行者の信用リスク」以外にも、「為替変動リスク」や、国や地域の経済情勢などの「カントリーリスク」など、リスク要因が増加します。
外国株への投資は、ご自身で直接投資するのではなく、「他人が運用する：投資信託への投資」枠で、つまり、投信経由での投資がベターだと考えます。
もしくは、私ども株式会社あすなろのような、投資助言者を利用して、実際の運用はご自身で行うというスタンスが安心でありましょう。

いかがでしょうか？これが、「ポートフォリオ運用」です。
投資対象は細かく「分散」されていませんが、リスクはある程度「分散」されています。

私どもあすなろは、個人投資家様のポートフォリオ全般について包括的なご助言・ご提言を行う事が、投資助言会社に求められる本来的な資質であると考えております。
ポートフォリオの調整に関してご助言する期間契約も承っており、「銘柄選択」やその「投資ウェイト（比率）」等を「お任せ」いただく、「半自動運用」にもお応えできます。

銀行株指数ETF（ 2025年3月18日 ）



（楽天マーケットスピードより弊社作成）

★実際の投資アイデア：銀行預金を銀行株への投資に振り向ける★

銀行株への投資は初心者にも上級者にもお勧めです。

銀行セクターの株価は、日本10年国債利回りに概ね連動してきました。
銀行業の基本的な収益源が長短金利差に大きく依存する為です。

金利上昇は基本的に銀行株にプラスの影響となります。
賃金と物価の好循環が続き、10年国債利回りが上昇し始めれば銀行株のパフォーマンス向上が期待できます。

利上げやその期待などで長期金利が上昇することで銀行の貸出金利が上昇する一方で、調達側である預金金利の上昇は利上げに対して引き上げが遅れる傾向があることから、金利上昇局面では利ざや（貸出金利と預金金利の差）が拡大する傾向があります。
利ざや拡大は銀行収益にプラスに働くため、今後の業績好転を期待して、銀行株は市場平均よりも大きめに上昇してきたものと考えられましょう。

例えば、三菱UFJフィナンシャル・グループ株は、配当利回りが2.85％程度と目されますので、4月1日時点の株価が、来年3月31日までの間に、全く変動しなかったと仮定しても、保有株数に応じて2.85％程度の配当を受け取る事ができます。
これに加え、上掲のような相場環境想定から、株価自体の上昇も期待されるわけですから、なかなか上昇しない預金金利という「確定リターン」よりも「投資による期待リターン」の方が遥かに大きくなるものと考えられます。

「株価変動（下落）リスク」も「信用リスク」も低めでありましょうから、リスクとリターンのバランスも「適格」と考えます。

◆重要事項・ディスクレイマー◆

本資料は投資勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終決定はご自身の判断でお願いいたします。

本資料に掲載された内容は、信頼できると考えられる情報をもとに作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではなく、一部に主観的な見解を含みます。

また、誤字・脱字等の単純な表記ミスの場合も含め、何らかの理由により誤りである可能性もあります。投資に当っての最終決定はご自身の判断でお願いいたします。

なお、当資料は用語の参考資料につき、使用すること等で生じた如何なる損失、費用の責任を負わず、損害賠償にも応じられない旨をご了承下さい。

本資料は、あすなろ投資顧問主催の各種キャンペーンやイベント等にご参加いただいた方を対象に配付しております。複製や第三者への提供および再配信は固くお断りいたします。

あすなろ投資顧問

© ASUNARO Ltd. All rights reserved 2024